

サーベイデータ

Stata の `svy` コマンドは複雑な構造を持ったサーベイデータに対しモデルをフィットさせる場合に使用されます。 `svy` はプリフィックス型のコマンドであり、

```
. svy: regress ...  
. svy: probit ...
```

のような形で使用します。ただしサーベイデータの特徴を規定するため、事前に `svyset` コマンドを実行しておく必要があります。 `svy` コマンドの概要については *mwp-079* をご参照ください。

`svy` は分散の推定に関し次のような手法をサポートしています。

- テイラー級数線形化 (Taylor-series linearization)
- ブートストラップ法
- 均衡反復複製法 (BRR: balanced repeated replication)
- ジャックナイフ法
- SDR (successive difference replication) 法

標本抽出デザインの特性については次のような項目を `svyset` コマンドで設定することができます。

- 復元抽出 (with-replacement sampling) 及び非復元抽出 (without-replacement sampling)
- 抽出ウェイト (sampling weights)
- 層化 (stratification)
- 事後層化 (poststratification)
- クラスタリング (clustering)
- 非復元多段クラスタリング
- BRR ウェイト、ジャックナイフ法複製ウェイト

また、すべての推定コマンドにおいて部分母集団 (subpopulation) に対する推定が可能です。

■